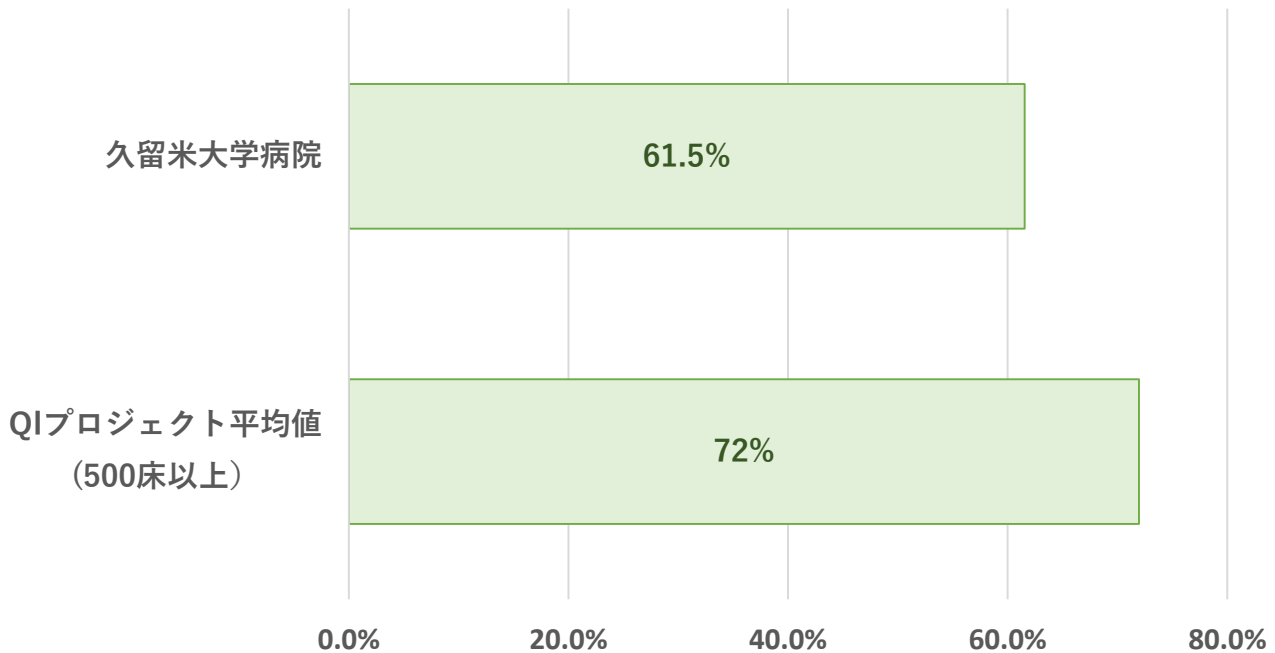


脳梗塞(TIA含む)患者の入院2日目までの 抗血小板・抗凝固療法処方割合

2023年度



指標の説明

脳梗塞やTIA後の早期における抗血小板療法や抗凝固療法の開始は、再発リスクを大幅に減少させることができます。これらの療法は、血栓形成を防ぎ、脳への血流を改善し、さらなる脳組織の損傷を防ぐことを目的としています。本指標は、脳梗塞やTIA後の迅速な医療介入を示すクリニカルインディケータです。

ここでは、日本病院会のQ Iプロジェクトの平均値（回答数=102）と比較しています。

定義

分子：入院2日目までに抗血小板療法もしくは一部の抗凝固療法（オザグレルナトリウム）を受けた患者数

分母：凝固療法（オザグレルナトリウム）を受けた患者数

考察

本指標は、より高い方が望ましいとされています。当院の脳梗塞(TIA含む)患者の入院2日目までの抗血小板・抗凝固療法処方割合は、Q Iプロジェクトの平均値72.0%より低い61.5%となりました。